

採用停止・前倒し採用について

質問

皆さん、こんにちは。吹田新選会、足立将一、個人質問をさせていただきます。

市議会議員として仕事をさせていただいてから、今月の27日でちょうど3年となります。3年前のことがはるか昔のことに感じられるくらいたくさんの方があったのですが、今回は、私が過去質問した問題について、さまざまな市長の政策判断がなされましたので、ただその判断が果たしてどうなのかと思う部分が出てきておりますので、質問をさせていただきます。

最初は担当部局への質問ですが、伺いたいのは政策判断の部分なので、最終的には市長に答弁を求めますので、お答えいただきたく存じます。

まず採用停止解除について質問をいたします。

私は財政健全化という方向性は賛成しておりましたが、その手法として3年間も採用停止することは、技術継承や職場の士気だけでなく、そもそもこれほど大きな組織の運営上あり得ないことであり、愚策であると指摘を続けておりました。

このたび、急遽採用を再開されたわけですが、まず、政策決定の日にち、平成23年度・24年度・25年度の依願退職者数、平成26年度の4月に採用するのではなく10月採用にした理由をお答えください。

門脇則子行政経営部長

前倒し採用につきましては、担当部局で検討を重ねた結果、平成26年5月1日に開催の政策会議で政策決定をいたしました。

依願退職者数は、平成23年度が96人、平成24年度が117人、平成25年度が111人でございます。

10月採用にした理由につきましては、行政の維新プロジェクトの取り組み課題の一つである職員体制見直しの骨子により、平成23年度から平成25年度の3年間、採用試験を行わず、退職者不補充を実施いたしました。当初の数値目標から過達成している状況にあり、多くの欠員が発生している中、部局の職員体制が厳しい状況にあることや、全庁を挙げての行政の維新プロジェクトの取り組みにより、臨時財政対策債の発行と財政調整基金の取り崩しに頼る赤字体質からの脱却という大きな目標が達成可能になりつつあることから、平成27年4月採用予定者のうちの一部を平成26年10月に前倒し採用をするものでございます。

以上でございます。

質問

今回、平成26年度の4月ではなくて10月採用にした理由を伺っていても、多くの欠員が発生していることや財政状況なんていうのは、今年度に入って急遽わかったこと

ではなくて、もっと前からわかっていたはずなんですよ。それが5月1日の政策会議で決まったということで、私自身はこの4月に採用しておれば、組織としてはもっと円滑にいったのではないかなと思うのですが、なぜ26年4月には採用しないという判断になってしまったのですか。

門脇則子行政経営部長

先ほども御答弁申し上げましたけれども、行政の維新プロジェクトの中で3年間の採用試験を行わず、退職者不補充をするという目標を掲げておりました。その目標を一定達成ができましたので、職員状況等を勘案いたしまして、今回、27年の当初に採用する予定数の中から前倒しをするということを決定させていただいたということでございます。

以上でございます。

質問

年度当初の採用をやめていたから、それはいいんじゃないかということなのですが、私は別に採用するなということではなくて、なるべく早くに採用を再開すればということをおっしゃったので、いいんですけども、ただ、その政策判断の部分がちょっとおかしいと思うので、ちょっと質問させていただきますね。

平成25年度ですかね、昨年度4月の第9回行政維新プロジェクトマネジメント会議では、行政経営部長が採用の前倒しの検討を依頼されておりました。部長がアドバイザーに対して意見も求めておったんですけども、それに対する稲継裕昭アドバイザーの答えがどのようなものだったのか、市長、覚えておられますか。

井上哲也市長

行政の維新のプロジェクトの改革の工程どおり3年間採用停止をすべきだということでした。

質問

そうなんですよ。何か歯を食いしばって頑張ろうという宣言をしたからには、市民にその姿勢を示す意味でも3年間は維持する必要があるのではないかと。いろんな部局から職員の必要性が出てくるので、それを調整するのはとても困難であり、3年間という時限を設けたのであれば、職員の異動などで何とかやりくりすべきだと。これ、全て引用ですけども、大学教授の割にはなかなか精神論的な話で、その後市長からは何ら意見もなく、そのとき、その話は立ち消えになったんですけども、今回の判断を見る限り、その専門家とされる方の意見は何ら意味がなかったところか的外れであったように感じます。

市長ね、今回、その政策判断は非常に中途半端であったのではないかなと私は思います。御自身で決めた3年間の採用停止をなし遂げなかつただけでなく、どうせ採用停止をやめるのであれば、もう少し早くに判断すれば、組織にとって、吹田市役所という組織にとってはよかつたのになと思うのですけども、その政策判断をした時期についてはどのようにお考えですか。

門脇則子行政経営部長

繰り返しになりますけれども、3年間の採用停止ということは、23年・24年・25年度に試験をせずに、ですから、平成26年度の4月に入ってくる職員まで採用試験をしないという目標は一定達成した。これはあくまで前倒しでございますので、27年に採用する予定者数の、その数のうちの一部を前倒しをするということでございますので、目標に掲げている3年間採用停止というのは達成した、稲継アドバイザーの意見は3年間は掲げた目標は達成しなさいということでしたので、それは一定達成したという判断でございます。

3月の定例会におきまして、市長のほうで御答弁を申し上げてる中でも、必要に応じて平成27年度以降の予定数について、平成26年度中に前倒しをして採用を行うことも検討してまいりたいというふうに答弁しておりますが、それを踏まえまして、事務方のほうでいろいろ検討をした結果がこういう形になったということでございます。

以上でございます。

質問

3年間、4月っていう時点さえ守れば、それで後はオーケーだということだったのかと思って、ちょっと誤解しておりました。わかりやすさを言ってはる市長の政策にしてはちょっとわかりにくいなと思うんですけども。

ちなみに、今回の行政経営部長の答弁では、目標達成が可能になりつつあるということをおっしゃってたんです。ただね、平成23年の9月の時点で、私、当初から反対しておりました。そのとき質問させていただいて、当時の政策推進部長が平成26年度の経常収支比率95%が最優先課題であり、採用停止のデメリットは理解しながらも実施するとのことでした。

しかし、先ほどもございましたけども、平成26年度の経常収支比率95%の達成は現時点では困難という見解が示されております。

そもそも設置した目標がすりかえられているんですけども、それはいいとして、市長、採用停止という禁じ手を使ってでも、目標達成できなかった理由をどのように分析されていますか。市長に対する質問です。

井上哲也市長

行政の維新プロジェクトの改革の工程表でいいますと、平成 25 年度までに赤字体質からの脱却ということであれば、臨時財政対策債もこれまでも発行していませんし、財政調整基金も、今決算やらせていただいておりますが、取り崩しをしなくてもいけるような可能性がある、ということは達成をさせていただいております。

ただ、経常収支比率 95%、先ほどから御議論していただいておりますけども、今は厳しいけども、それに向けて今頑張っているという状況でございますので、達成をしていないという御指摘は間違っていると思います。

質問

達成できるかどうかというの、選挙の後のことなので、おいおいわかることですが、私はこれ、何を言いたかったかという、吹田市がよりよいまちになるためには、そのための政策を実行する、吹田市役所という組織がより機能的に、かつモチベーションや意識が高い組織になる必要があると考えております。

現在、想定より依願退職者がふえているなどの状況もございますけども、職員の士気も含め、井上市長、みずからの組織運営手法について、みずからどのように評価されていますか、お答えください。

牧内章総務部長

私のほうからお答えをさせていただきたいと思います。

この間、平成 23 年度以降の公務員制度改革におきましては、これは職務、職責に応じた処遇ということで、そのあたりを明確化する。それから、人事評価制度を入れて、日々のその勤務状況に応じた、これはまた昇任でありましたりとか、給与に反映させるということを行いまして、それまでのいわゆるその前例踏襲型の公務員制度、公務員体制の中から、これはもう意識の変革を図って、新しい組織に変革をしていこうということで、この3年間やってきたということでございます。

そういった中で、徐々にその効果もあらわれてきて、職員が主体的、自主的にその能力を発揮しておるということも出ておりますので、この3年間の実績が、変革が実を結びつつあると、そのように感じてございます。

以上でございます。

井上哲也市長

今、担当部長から御答弁申し上げました。

さらに申し上げますと、やはりこれまでの慣例をすることによって、市民サービスがやっぱり、これまでと同じであっては困るということで、いろいろな改革、役所の中も改革をさせていただきました。

先ほど御答弁申し上げました人事評価もそうですし、職務、職責に合わせた、例え

ばわたりの廃止もさせていただきましたし。ただ、もう一つは部長に財源と権限を渡すということもさせていただいて、それぞれが責任を持っていただいて、職員は職員で頑張ってくださいということもさせていただいたので、私はこの3年間でやり切ることはやり切ったのではないかなと思っています。

質問

御自身でそのような評価をされているのはいいことだと思うんですけども、私、市民から伺うのは、どうしても職員の顔が暗くなってしまってるんじゃないかということをよく伺います。

実際、市長のみずからの評価を聞いて、職員の方々がどう思われるのかというのは、職員に聞いてみないとわからないところではございますけども、次の選挙が楽しみでございます。